

第15回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優 秀 賞

小論文部門

電子マネーに焦点を当てた金銭管理教育

～中学校家庭科での授業提案に向けて～

大阪府・大阪教育大学 4年 小宅 ななみ

知るぽると
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2018

1. はじめに

近年、日本社会において現金を中心としてきた決済方法が、クレジットカード、デビットカード、プラスチックカードやスマートフォン搭載の電子マネーなどによる決済方法へと多様化している。現金を使用しない決済方法であるキャッシュレス決済については、経済産業省より「キャッシュレスの現状と推進」(平成29年8月)¹⁾が報告されている。報告より、キャッシュレス決済は決済額及び民間最終消費支出に占める比率ともに増加している現状であり、安倍政権では「日本再興戦略」をはじめ様々な場でキャッシュレス推進の方針を打ち出していることから、日本においては今後さらに決済方法のキャッシュレス化が進行していくと推察される。

さらに、東京オリンピックの開催に加え、インバウンドの増加から、今後日本を訪れる外国人がさらに増加すると考えられる。しかし、海外では日本よりも現金の使用率が低く、キャッシュレス決済を主な決済方法としている現状にある。日本のキャッシュレス化が海外に比べて遅れていることから、日本を訪れる外国人の多くが支払いに関する不安を抱えているという問題がある²⁾。したがって、この点からも外国人の消費行動向上に向け、日本社会全体が今後、キャッシュレス化を進行させていくことが予想される。

一方、平成29年に告示された中学校技術・家庭科(家庭分野)の学習指導要領では、「金銭の管理」に関する内容が新設された。新学習指導要領解説にて、「今回の改訂では、キャッシュレス化の進行に伴い、小・中・高等学校の内容の系統性を図り、中学校に金銭の管理に関する内容を新設している」と記されている³⁾。つまり、中学校技術・家庭科(家庭分野)においてキャッシュレス化に対応した金銭管理教育の必要性が明示されたことになる。

そこで本研究では、キャッシュレス化時代を生きる中学生に家庭科の授業を通してどのように金銭管理の力を身に付けさせるのか、現代の中学生の電子マネーに焦点を当てた、お金に関する実態のアンケート調査結果をもとに検討する。

2. 調査の概要

本調査は奈良県にあるM中学校に通う中学1～3年生を対象に質問紙調査を実施した(図表1)。調査の概要は以下の通りである。なお、本調査は無作為抽出ではない。

- ・調査対象者：奈良県のM中学校(町立)に通う中学1～3年生
- ・調査期間：2018年7月上旬
- ・調査方法：担任を通じた自記式調査(無記名)
- ・回収数：451
- ・有効回答数：451
- ・有効回答率：100パーセント

図表1 回答者(学年別)

	人数(人)	割合(%)
1年生	145	32.2
2年生	142	31.5
3年生	164	36.4
合計	451	100.0

3. 本調査における電子マネーの定義

本調査においては、電子マネーの定義を「お札や貨幣といった現金ではなく、カードやスマートフォンで持ち運ぶようなデータ化されたお金」とする。キャッシュレス決済の種類として4つに区分される電子マネーの中で、ポストペイの電子マネーは年齢制限が高く中学生は使用できないものが多い⁴⁾ため、中学生が使用できるプリペイドの電子マネーのみを調査の対象とした(図表2)。また、プリペイドの電子マネーを使用対象や使用方法の違いによって5つに分類し、アンケートに回答する生徒全員が共通認識できるよう、分類表(資料)を黒板に貼りアンケート調査を実施した。

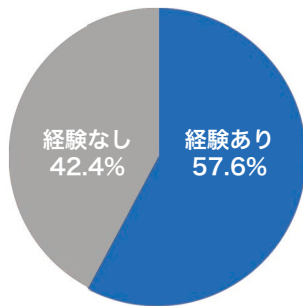
図表2 キャッシュレス決済の種類

インターネット		
電子マネー	デビットカード	クレジットカード 電子マネー
前払い(プリペイド)	即時払い	後払い(ポストペイ)
図書カード、QUOカード テレホンカード、商品券 電子マネー	現金払い、コンビニ払い 銀行振込、デビットカード	クレジットカード ETCカード 電子マネー
リアル		

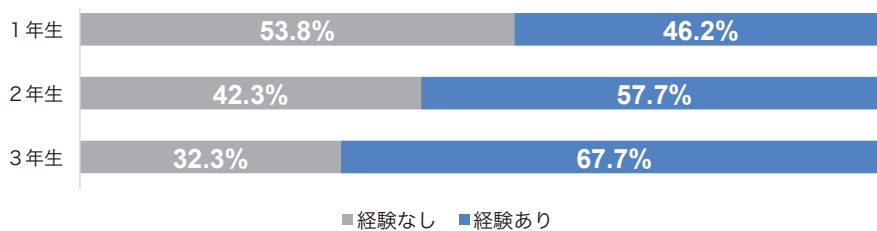
4. 電子マネー使用状況

この1年間にプリペイドの電子マネーを使った経験があるか尋ねたところ、半数以上の中学生が電子マネーを使った経験があると回答している(図表3-1)。学年別に使用経験を見ると、中学2・3年生は半数以上が電子マネーを使用した経験があると回答している(図表3-2)。そこで、電子マネーを使用した経験があると回答した中学生が、5つに分類した電子マネーのうち、どの種類のものを使用したことがあるのかを調べ、結果を棒グラフにまとめた(図表3-3)。電子マネーを使用した経験がある生徒のうち、約9割は交通系電子マネーを使用していた。次に多いのが複数の店で使える流通系電子マネーであり、約3割が使用していたことが明らかになった。交通系と比較すると使用率は低いが、アンケート回答者451人のうち78人が流通系電子マネーで支払いをしているという結果は、注目に値する。なぜなら今後、電子マネーの使用人数は確実に増えると推測できるからである。

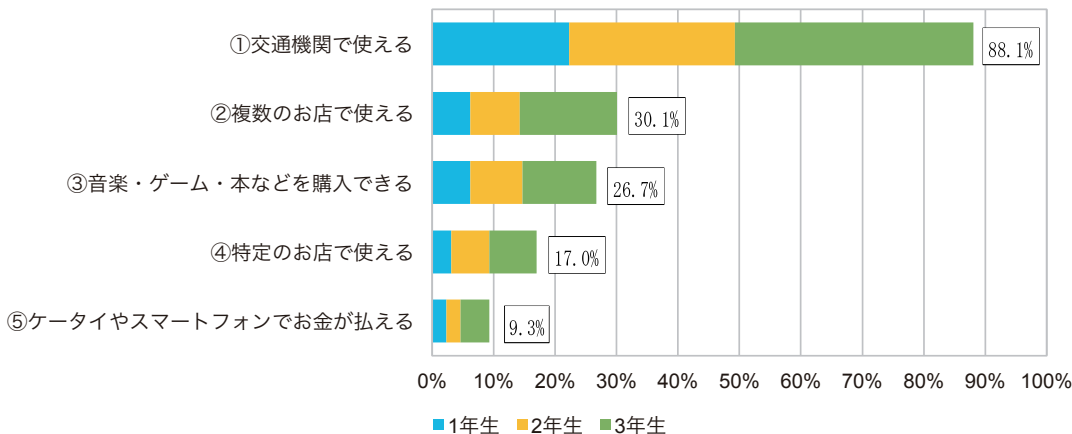
図表3-1 電子マネーの使用経験



図表3-2 電子マネーの使用経験学年別割合



図表3-3 5つに分類した電子マネーの使用割合と学年別色分け

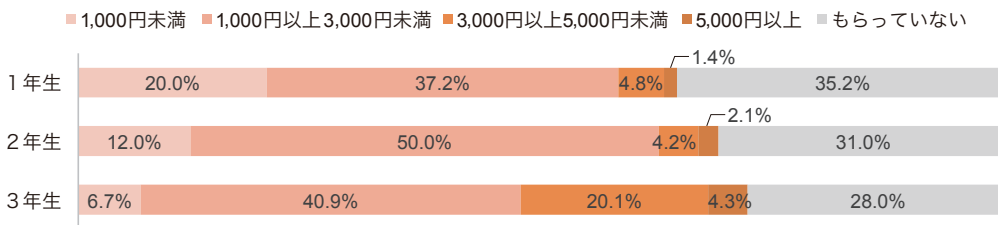


5. 1か月のおこづかい金額と使用金額

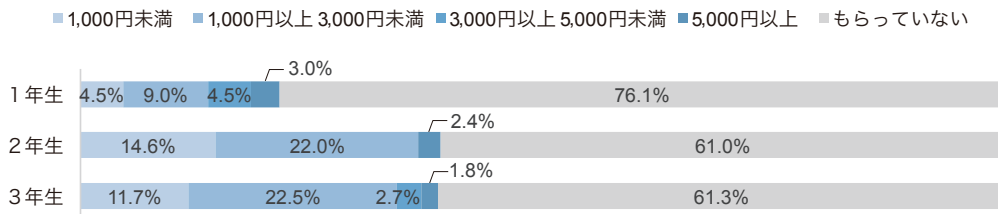
1か月のおこづかい金額と使用金額について尋ねた。電子マネーを使用した経験がない人には、電子マネーのおこづかい金額と使用金額に関する質問はしていない。したがって、現金のおこづかい金額と使用金額別の人数の割合は451人全員に対する割合であり、電子マネーのおこづかい金額と使用金額別の人数の割合は電子マネーの使用経験があると回答した260人に対する割合である。図表4-1と図表4-2より、現金と電子マネーのおこづかい金額を比較した。これらの結果から、①電子マネーのおこづかいをもらっている中学生がいること、②高額な電子マネーのおこづかいをもらっている中学生がいること、③中学2年生から電子マネーのおこづかいをもらう中学生が増えていることが明らかとなった。また、現金と電子マネーのおこづかいの平均金額を求めたところ、全体としては現金と電子マネーとの平均金額の差はそれほどないことが判明した（図表4-5、4-6、4-7）。

1か月の使用金額については、「分からない」と回答する割合が、現金と比べて電子マネーの方が、どの学年も多い結果となった（図表4-3、4-4）。ただし、あまり大きな差は見られなかった。平均使用金額は電子マネーの方が現金と比べて少し低いが、達観すれば電子マネーを使用する中学生は、1か月当たりの現金の平均使用金額とほぼ同じ金額を使用しているという結果が得られた（図表4-8、4-9）。

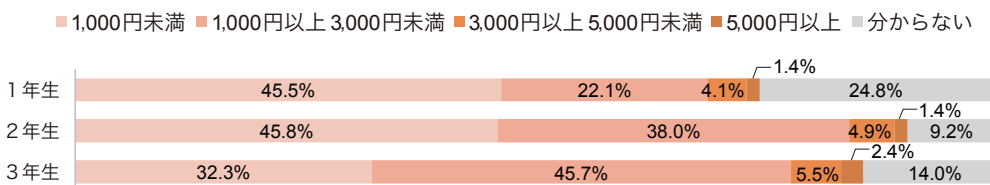
図表4-1 1か月の現金おこづかい金額



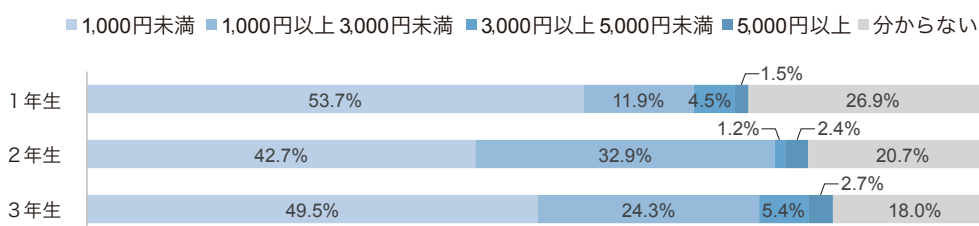
図表4-2 1か月の電子マネーおこづかい金額



図表4-3 1か月の現金使用金額



図表4-4 1か月の電子マネー使用金額



図表4-5 平均金額計算時の数値の置き換え

1,000円未満	⇒	500円
1,000円以上 3,000円未満	⇒	2,000円
3,000円以上 5,000円未満	⇒	4,000円
5,000円以上	⇒	6,000円

図表4-6 現金の平均おこづかい金額

1年生(92人)	2年生(97人)	3年生(118人)	全体(307人)
1,766円	1,985円	2,657円	2,136円

図表4-7 電子マネーの平均のおこづかい金額

1年生(14人)	2年生(32人)	3年生(43人)	全体(89人)
2,679円	1,688円	1,872円	2,079円

図表4-8 現金の平均使用金額

1年生(106人)	2年生(128人)	3年生(141人)	全体(375人)
1,255円	1,410円	1,677円	1,447円

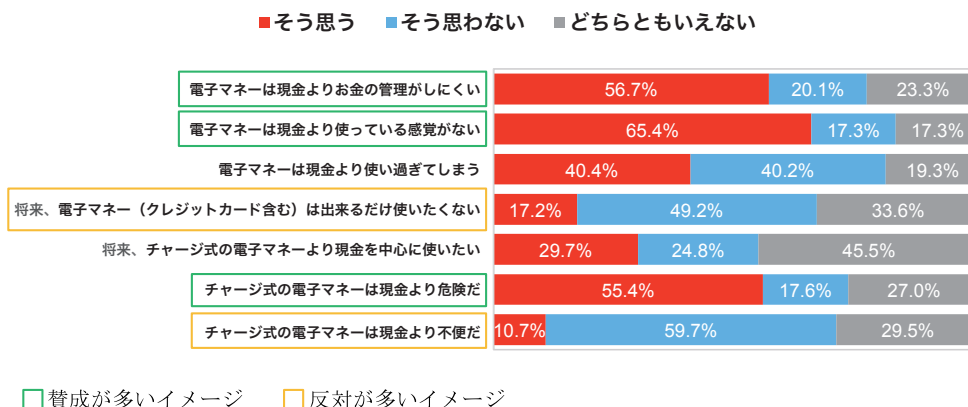
図表4-9 電子マネーの平均使用金額

1年生(48人)	2年生(65人)	3年生(91人)	全体(204人)
1,083円	1,346円	1,357円	1,262円

6. 電子マネーのイメージ

現代の中学生は電子マネーに対し、どのようなイメージを抱いているのか。その点について質問をしたのが図表5である。「そう思う」と回答した割合が高い項目は、電子マネーに対し「管理の難しさ」、「使っている感覚がない」、「使い過ぎ」、「危険性」を述べている。一方で「そう思わない」と回答した割合が高い項目は、「将来使用したくない」ことや「電子マネーの不便さ」を述べている。この結果より、電子マネーに対するポジティブなイメージが「便利さ」であり、ネガティブなイメージが「管理の難しさ」であることが判明した。

図表5 電子マネーに対するイメージ



7. 現金と電子マネーにおける金銭管理の比較

現金と電子マネーの金銭管理について、「お金の使い方について計画を立てている」「使用記録またはおこづかい帳を付けている」に対する回答から分析を行った。回答別に点数化し、得点ごとの人数の分布を図に示した(図表6)。点数が高いほど管理ができていることを表している。電子マネーと現金の分布の違いは明らかであり、電子マネーは現金に比べて管理ができていることが判明した。

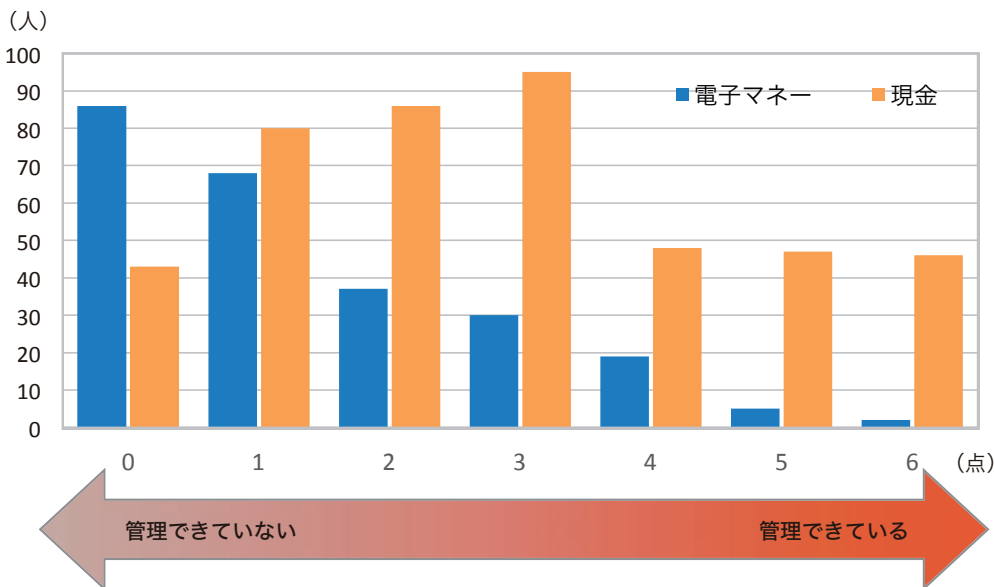
〈得点分布表の作成方法〉

*質問項目1：使い方について計画を立てている

*質問項目2：使用記録(またはおこづかい帳など)をつけている

全くない→0点 あまりない→1点 時々ある→2点 よくある→3点

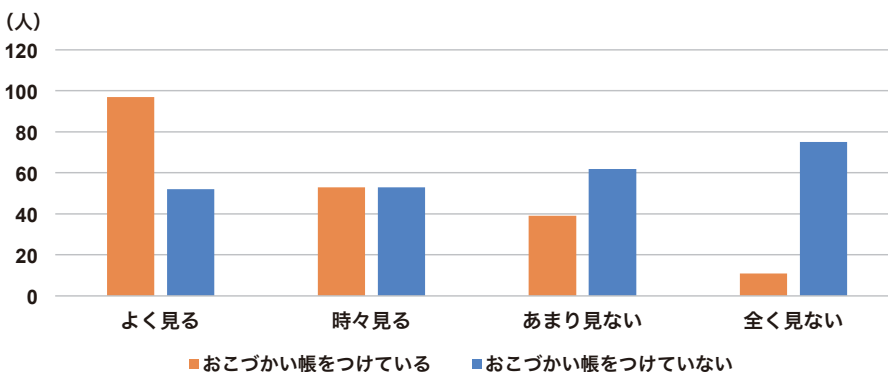
図表6 お金の管理得点表



8. 家庭環境と電子マネー管理

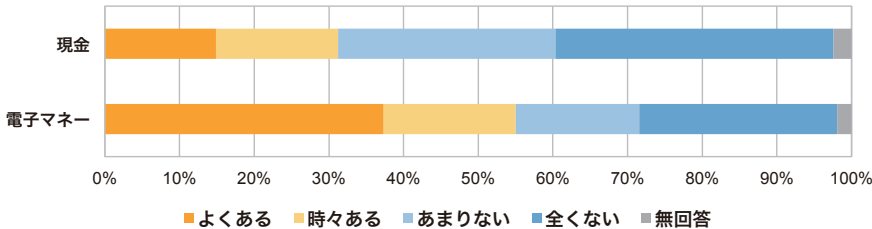
家庭環境は、中学生のお金の管理にどれほど影響力があるのか。「現金の使用記録(またはおこづかい帳)をつけている」に対し、「よくある」「時々ある」「あまりない」の回答をあわせて「おこづかい帳をつけている」にまとめ、「全くない」を「おこづかい帳をつけていない」に変更し、分析を行った。その結果、家族の誰かが家計簿やおこづかい帳をつけている姿を見る頻度と重ね合わせると、見る頻度が高いほど、おこづかい帳をつけている中学生は多くなることが判明した(図表7-1)。

図表7-1 おこづかい帳の作成と家計簿を付けている姿を見る頻度

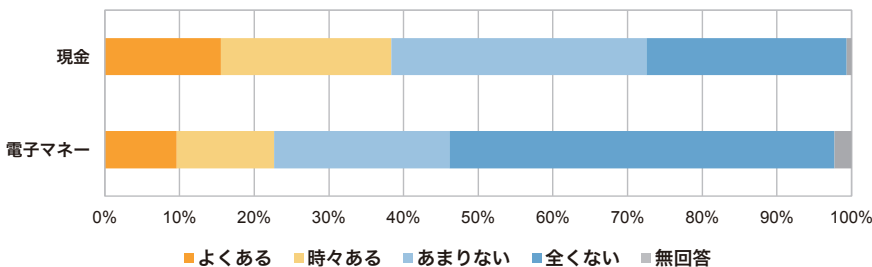


次に、家庭における現金の管理教育と電子マネーの管理教育の頻度を比較した。「使用しているお金の金額を家族の誰かが管理・確認しているか」という質問に対する回答は、現金に比べて電子マネーの方が「よくある・時々ある」が多い（図表7-2）。また、「家族の誰かにお金の使い方について怒られたり教わったりといった教育を受けたことがあるか」という質問に対する回答は、電子マネーの方が「よくある・時々ある」が少ない（図表7-3）。これらの結果より、家庭における電子マネーの管理教育の方が、現金よりも行われていないことが判明した。

図表7-2 あなたが使用しているお金の金額を家族の誰かが管理・確認している



図表7-3 家族の誰かにお金の使い方について怒られたり教わったりといった教育を受けたことがある



9. まとめと今後の課題

学習指導要領の改訂を踏まえ、キャッシュレス化に向けた金銭管理教育に着目し、中学生の電子マネー利用に焦点を当てた、お金に関する実態調査を行った。調査結果から、中学校家庭科の授業を通して、どのように金銭管理の力を身に付けさせるかを検討する。

中学生の実態として、2・3年生の半数以上が電子マネーを使用しているという結果が得られた。また、使用金額においては、おこづかい金額・使用金額ともに、現金と電子マネーの金額差が小さく、現金と同等かそれ以上に電子マネーを使用していることが明らかとなった。現代の中学生は電子マネーをよく使用しており、電子マネーに対して「便利である」「将来も使用したい」とポジティブなイメージを持っている。しかし一方で、「管理がしにくい」「使っている感覚がない」「危険である」とネガティブなイメージもあることが判明した。

「電子マネーは管理がしにくい」という意見に関して、現金と電子マネーの管理状況を比較した結果、実際に電子マネーの方が現金に比べて管理ができていないことが確認された。では、金銭管理の力はどのようにしたら身に付くのか。金銭管理の方法の一つである「おこづかい帳をつける」行動ができていない中学生の人数は、家庭で家計簿をつけている姿を見た頻度に比例していることが明らかとなった。この結果から、金銭管理の力を身に付けさせるには、家庭環境がカギとなることが分かる。しかし、電子マネーの使用金額の確認・管理を保護者が行っていることや、電子マネーの使い方についての教育が家庭内であまりなされていないことが、調査結果から新たな問題点として明らかとなった。

これまで中学校家庭科における金融教育は、教科書に記載されている順番から、中学3年生の2学期および3学期に行われていた。しかし、現代の中学生の実態より、中学2年生時に電子マネーを管理する能力を身に付けさせるためには、中学1年生時に電子マネーの金銭管理教育を行うべきであることが示唆された。また、「電子マネーは管理がしにくい」というイメージに加え、実際に金銭管理ができていないことから、電子マネー管理教育の必要性は高いことが言える。さらに、家庭内の金銭管理を見ることにより、中学生の金銭管理能力が身に付くことから、中学校家庭科の授業では、生徒に家庭内のお金の管理を調査させる活動や、家族とお金の管理に関する話し合いを行うことによって、金銭管理の力を身

に付けさせることができると推察する。しかし、その際には保護者との連携が必要であることや、家庭の事情からお金の話が保護者とできない環境にある生徒の存在などが予想されることから、授業内容の検討が必要であり、今後の課題としたい。

注1) 経済産業省 商務・サービスグループ「キャッシュレスの現状と推進」 平成29年8月

URL http://www.soumu.go.jp/main_content/000506129.pdf

注2) 日本政府観光局「『訪日外国人個人旅行者が日本旅行中に感じた不便・不満調査』報告書」 平成21年10月

URL https://www.jnto.go.jp/jpn/downloads/20091029_TIC_attachement.pdf

注3) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』（技術・家庭編） 平成29年7月

URL http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm

注4) 公益社団法人全国消費生活相談員協会 ブックレットシリーズ82『お支払は、どれになさいますか？～新しいおかねの世界～』 2013年

資料 電子マネー分類表

*電子マネーとは、お札や貨幣といった現金ではなく、カードやスマートフォンで持ち運ぶようなデータ化されたお金。このアンケートの中では基本的にクレジットカードのような後払い式のもの電子マネーに含みません。

(1) 電車やバスに乗るときに改札で使う電子マネーカード。定期券のように期間内であればいくらかでも使用できるものは電子マネーに含まない。改札を通るたびに残金が減っていくものを電子マネーとする。				
● CI-CA	● Suica	● PASMO	● ICOCA	● toica
● manaca	● Kitaca	● SUGOCA	● nimoca	●はやかけん
(2) カードのブランドと同じマークがついているお店ならどこでも使えるチャージ式の電子マネーカード。				
●楽天 Edy(エディ)	● WAON	● nanaco	● T ポイントカード	
● SoftBank カード	● auWALLET	● LINE Pay カード		
(3) インターネット上で音楽・ゲーム・本を購入するときに使う電子マネーカード。				
● iTunes カード	●モバコインカード	● Amazon ギフトカード	● HMV ギフトカード	
(4) 特定のお店で使える電子マネーカード。コメカはコメダ珈琲、Cooca はゼンショーグループのお店(すき家、はま寿司、ビッグボーイなど)で使うことができる。				
●スターバックスカード	●ドトールバリューカード	●コメカ	● Cooca(クーカ)	
(5) ケータイやスマートフォンをかざすことで電子マネーが使えるシステム。				
● LINE Pay	● ApplePay	●おサイフケータイ	●ドコモ iD(アイディ)	